

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成28年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人ぜんしん	担当課名	青少年課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・「スタッフが不足する」という課題に対して、速やかに対応策を検討していることを高く評価したいと思います。市の担当職員と団体スタッフが協力関係を築いてきた結果だと思います。
 - ・この事業における最大の評価ポイントは、これまで解決策を見いだせず苦しんできた当事者・家族の自立へ向けた「第一歩の踏み出し」を支援していることだと思います。
 - ・また、協働により団体や市（行政）にもメリットがある「三方よしの協働事業」と言えます。
 - ・「学校に行けるようになる」、「就労する」という本事業の目的に向けて、「就労ボランティア」に関わるという次のステップへの展開に期待しています。
 - ・青少年課だけでなく、連携する市の部署を増やしていただければ（いきたい）と思います。
 - ・元当事者の経験・体験談を聴けるのは、当事者にも保護者にとっても大きなメリットであり、貴重な機会だと思います。実際に相談された方の感想をパンフレットやホームページなどでピーアールすれば、参加を躊躇している方への誘引材料になるのではないのでしょうか。
 - ・当事者や保護者は様々な悩みや不安を抱えていて、特に当事者は相当な勇気をもって参加していると思います。安心して利用できるよう、細やかな気配りと楽しい雰囲気づくりに腐心されていることと思います。これは、団体と行政がそれぞれの特性を活かしつつ、ミーティング、反省、振り返りという一連の流れを踏まえた支援を行った結果だと思います。今後も両者が対等な関係で連携を深め、支援を強化していただきたいと思います。
 - ・毎回相談会終了後にアンケートを実施し常に当事者の声に寄り添っている点、団体と担当課と一緒に反省会・振り返りを丁寧に行いながら事業内容や周知方法について改善を図っている点はとても良いと思います。
 - ・参加者の増加やボランティアスタッフの増加、また、新たな相談会場の提供についても協働事業を継続して行ってきた成果と言えます。
 - ・アンケート結果から、「ぜんしん」のゲームによる相談の特徴が活かされていることがわかった。
 - ・学校への復帰やアルバイトに就労できた方が3名いたことは、大きな前進ではないかと思われる。
 - ・フリースペースを設け、相談にいらした方々と相談員が安心する居場所を大事にすることは良い点だと思います。
 - ・団体と行政双方のスタッフが協力して実施していることが分かりますが、団体の経験者のアドバイスと行政からのアドバイスの両方の資料提供を含めた支援の充実を進めて欲しいと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・新規参加者がどのようなきっかけでこの事業に参加したのか(何を見て事業を知ったか)についてのヒアリングも必要です。(効果的な広報のために)
- ・協働事業の最終年度を迎え、今後の事業展開など次のステップへの準備をする1年になることと思います。事業と並行してこれらを進めるためにも、スタッフの確保については引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- ・本事業を中心に活動していただける方だけでなく、“他の活動とのかけもち”の協力者を増やして、ボランティアの登録者数を確保し、御都合がつくとき(年間1回だけでも)に事業に御協力いただくということでもよいのではないのでしょうか。“受付”など初めての方でも担える業務はあると思いますので)
- ・この事業に関する市のホームページを見ると、表現が少し硬く、折角の事業の良さがやや伝わりにくい感じがしました。アンケートによれば、参加理由で2番目に多いのがインターネットによるものであることから、例えば、団体が作成したパンフレットやポスターのデータを添付するなど、ビジュアル的な工夫も試みてはいかがでしょうか。
- ・11月の開催時は、中学校の先生からの紹介で参加した方が複数いられたとのことでした。学校の先生からの紹介はとても重要で効果的だと思われるので、参加した方の様子や感想などを、紹介した学校はもちろん、他校の先生にも情報提供する機会を作れば、さらに紹介が増え、参加者の増加につながるのではないのでしょうか。
- ・相談室の事業は、目標に掲げられている、「不登校やひきこもりの子どもたちの自立を支援する」ためのほんの入り口であると思います。自立の意味も自立までの時間も過程も様々で、この事業の成果は開催回数や参加人数、感想だけでは見えない部分があるのではないかと感じます。相談室を訪れた子どもたちが、その後どのように新たな一歩を踏み出すことができたのか、たとえば復学や就職までに、どんなハードルがあって、さらにどんな支援が必要なのか、ひとりひとりの軌跡を追うことで、新たな事業に結びつくヒントが見えてくるのではないかと思います。図書館ボランティアの新規事業提案も期待しています。学習支援やサポステのような就労相談機関との連携も考えられるのかなと思いました。
- ・直接事業とは関係ないことですが、WEB検索したときに県ホームページでは「NPO 法人ぜんしん」とあり、公式ブログでは「特定非営利活動法人ぜんしん」と表記されており、若干迷う人もいるかも、という気がしました。なかなか難しい問題ですが。
- ・団体活動の広がり、課題の共有や解決方法などの観点から、他団体との連携を進めていくことも必要と思います。
- ・市施設等での就労ボランティア事業にも関わっていきたいという意欲があるとのことですが、団体のスタッフの確保と専門的な研修の実施を大切にしたいと思っています。
- ・当事者の親子に対する事業ですが、保護者向けの支援とひきこもり当事者に対する支援では違いがあるので企画段階で分かりやすくPRすることが必要だと思います。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業		
事業開始年度	平成29年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・平成29年度に取り組んだ「情報発信機能の強化」のうち「情報紙のリニューアル」を特に評価したいと思います。手に取って読みたくなり、かつ、読んだ後にとっておきたいと思わせる情報紙に仕上がっています。（少し文字数過多かもしれませんが…）
 - ・また、「自治会に配布する予定で調整中」とのことですので、この情報紙が地域活動と市民活動の触媒の役割を果たしてくれることを期待しています。
 - ・市民活動団体と行政という異なる立場を相互に理解し合いながら事業を進めることで、市民活動やボランティアに関心のある市民の方やセンターを利用される団体のニーズに迅速、適切な対応が実現していると思います。
 - ・豊富なノウハウの蓄積とスキルを持った団体の皆さんの当事者性もあって、行政だけでは成しえない、市民活動センターの本来機能の再認識と強化が図れたのではないかと思います。
 - ・双方が目的を共有し、お互いの立場を理解、尊重しながら事業を実施したことで、市民活動センターの段階的民営化の初年度として、順調な滑り出しができたと思います。
 - ・相談件数の20%増を達成したことや、（団体の方に負担を掛けてしまったようですが）ホームページのリニューアルが前倒しでできたことは、今後につながる大きな成果だと思います。
 - ・全体を通して、専門性やこれまで培ってきたネットワークなど、団体の実力が存分に発揮されており、担当課もまた団体を尊重しながら密にコミュニケーションをとり対等な立場で事業を進められているという印象を持ちました。目的を共有し、設定した目標をひとつひとつ着実にクリアできている点（特に相談機能や情報発信の強化に関して）も素晴らしいと思います。
 - ・個人的にセンター運営の柱は「相談」と「連携」と考えているので、相談機能の強化が図れたことは評価できます。
 - ・ホームページのリニューアル、情報紙も新しくなり情報発信の強化ができたことは、新しい風が感じられます。
 - ・相談機能の充実をはかっているとのことですが、市民活動団体にとって頼りになります。今までの内容の傾向を情報紙等で発信していただけると良いと思います。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- 多様な組織との連携・ネットワークの構築に向けて、市の所管課が事務局となっている協議会等に向き、市民活動センターに関する情報提供（情報紙の配付等）や協議会等に関連のある市民活動団体を紹介することで、顔の見える関係が築けると思います。（民生委員児童委員協議会、公民館長会議・主事会議など協議会、連絡会は多数あります）
- ホームページや情報紙を活用して、団体（個人）が活動を思い立った時点から現在までの過程をロールモデルとして紹介する（複数回で？）ことも興味深いものになるのではないかと思います。
- 評価シートにも記載のあるとおり、今後、さらにマンパワーが必要になる中で、新規スタッフを含めた人材育成が重要になりますが、時間を工夫しながら随時、相談・協議されている現状をうまく維持していただきたいと思います。
- 事業の性格から、最後は、お互いの信頼関係に基づく意思疎通や情報共有が十分にできるかどうかか鍵だと考えますので、これまでどおり、円滑なコミュニケーションを図りながら、事業を進めていただきたいと思います。
- 初年度にとっても精力的に新規事業に取り組んでいることで、期待感がある反面、スタッフに負担がかかっていないか少し心配な面もあります。センター運営については飛び込み案件も多いので、対応できるように、ある程度の余力を残しておくために、業務の見直しにも取り組んでもらえるとよいと思います。
- 今後の展開の中で目標として掲げられている「多様な主体との連携ネットワークの強化」に関しては、地道に丁寧に対話を重ねていくことが必要で、そのためには、センターの外で働く時間が際限なく増えていく可能性もあると思います。目標設定や評価軸について、お互いに共有していくことがさらに大切になってくるのではないかと思います。
- 他セクターや施設との連携強化、特に社協ボランティアセンターとの連携は共通項が多いため、情報を共有していける仕組みを作っていけると良いと思います。
- 新規スタッフが増えていくことも考えられるとのことですが、それぞれのスタッフの得意分野などについての研修や市民へのスタッフ紹介を丁寧にしていただくことが大事だと思います。
- ひらつか市民活動センターを拠点に色々な分野の団体、行政、大学、企業、自治会等の連携が大事ですが、「市民活動センターの事業」と「湘南 NPO サポートセンターの自主事業」の区別を分かりやすくしたほうが良いと思います。